

## 会 告

個人情報の保護に関する基本方針について（再）.....	78
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録について（再）.....	78
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について（再）.....	79
土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の発行について（再）.....	80
平成 17 年度農業土木学会地方講習会テキストについて（再）.....	80
農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について.....	80
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について.....	81
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	81
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します.....	82
「性能設計チュートリアル」の開催  .....	83
平成 17 年京都支部セミナー開催  .....	83
平成 17 年度農業水利研究部会研究集会の開催  .....	84
第 43 回材料施工研究部会シンポジウムの開催  .....	85
ICID 第 57 回国際執行理事会，第 3 回アジア地域会議および第 7 回国際マイクロかんがい会議における発表論文募集について.....	85

## 学会記事

.....	87
-------	----

## 農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 12 月 2 日	資源循環研究部会	平成 17 年度研究発表会 		幕張メッセ	73 巻 6, 10 号
平成 17 年 12 月 12, 13 日	応用水理研究部会	平成 17 年度講演会 	農業土木分野における応用水理学研究の課題	福岡市	73 巻 10 号
平成 17 年 12 月 18 日	農業水利研究部会	平成 17 年度研究集会 	農業水利と地域防災	東京都	73 巻 11 号
平成 18 年 1 月 25 日	北海道支部	講習会 		札幌市	
平成 18 年 1 月 26, 27 日	京都支部	平成 17 年度セミナー 		京都市	73 巻 11 号
平成 18 年 2 月 3 日	材料施工研究部会	第 43 回シンポジウム 	土構造物における機能の診断・損傷・復旧（仮）	神戸市	73 巻 11 号
平成 18 年 3 月	水土文化研究部会	第 3 回水土文化研究部会 	先人達の「水土の知」	農業工学研究所	

### 第 73 巻 12 号予定

展望：活力ある学会を目指して：宜保清一

報文： バイオマス利活用に関する地域リサイクルシステムの提案：木村 喜作

リモートセンシングデータを活用した砂漠化の評価：成岡 道男他

歴史的水利慣行の智慧を海外の灌漑開発に活かす：友正 達美

スリットから流入する井戸の揚水に関する研究：磯島 義一

自然再生推進法から見た住民参加型ピオトープづくりの課題：杉谷 博隆

輸送問題からみたバイオマス利活用：柚山 義人他

「食の安全」への取組みと農業土木分野の関連性：加藤 幸他

### レポート

用水路システムの性能項目に関するアンケート調査：中 達雄他

### 技術レポート

北海道支部：冷害軽減のための水稻栽培環境モニタリングシステムの試行：南部 雄二他

東北支部：越中堰 2 期地区で採用した巻込鋼管工法による水路トンネル改修工事例：高橋富士規他

関東支部：防災ダム西大谷池地区ダム改修工事の施工例：太田 和久

京都支部：新潟県中越大地震で被災した農地・農業用施設の復旧状況について：五位野 操

中国四国支部：中池の整備 オニバスの再生：米田 厚

九州支部：棚田整備と村おこし 里地棚田保全整備事業 坂元地区：上野 竜二

講座：バイオマス利活用（その 7）バイオマス利活用の評価手法：小林 久他

小講座：トレーサビリティ：田上 隆一

私のビジョン：地域環境リスク学のすすめ：小林 晃

論文をかたる：妥当な灌漑開発スケール決定の拠所を求めて：松島 修市

## 個人情報の保護に関する基本方針について(再)

農業土木学会は、平成17年4月からの「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)の施行に伴い、第193回理事会

(17.9.6開催)において「農業土木学会の個人情報の保護に関する基本方針」(73巻10号巻頭掲載)を定めました。

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録について(再)

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。下記様式によりお申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域(農村)計画，

(社)農業土木学会 宛

FAX : 03 3435 8494

E mail:saigai@jsidre.or.jp

提出年月日 年 月 日

#### 災害対応調査団専門別調査団員登録申込み票

登録者氏名	
フリガナ	
生年月日 (西暦)	
会員番号	
所属	
役職	
勤務先住所 〒 -	
電話番号(勤) ( )	
FAX番号(勤) ( )	
E mail(勤)	
自宅住所 〒 -	
電話番号(自) ( )	
E mail(自)	
専門分野	希望の専門分野を丸印で囲んで下さい(複数可)
	水理 水文 気象 土壌物理 土質 地質 地理 環境
	地域(農村)計画 灌漑排水 農地造成 農地整備 農地保全
	水産土木 材料・施工 農業機械 その他
活動の範囲	(例)九州ブロック (例) 県
主な略歴	(例)災害調査団 (例)県調査団

登録頂いた個人情報は、災害対応調査にのみ活用し、個人情報保護の観点から、適切に取り扱います。

一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， その他

なお、登録頂いた個人情報は、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取り扱います。

## 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について（再）

農業土木学会行事企画委員会  
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

### 1. 趣旨

農業土木技術者継続教育制度（以下「機構」という。）は本格的な運用開始後4年目に入り、会員数も7,500名と増加してきています。しかしながら、業務の多忙や身近な研修機会の不足などにより、CPD単位取得ができない方が多くおられます。そして、この方々からは、在宅で手軽に参加できる方法を求める声が寄せられており、農業土木学会員等を主体に気軽に研鑽できる教育制度の創設が求められていました。

そこで、学会、機構双方に入会している方のCPD取得機会を増加させることを目的として、農業土木学会誌を活用した通信教育の実施を検討してきました。そして、このたび、本格的な通信教育を視野に入れた試行を行うことになりました。

### 2. 具体的な方法

#### (1) 開始時期と試行期間

学会誌に毎号問題を掲載し、メールにて回答する方法で、平成17年10月号より開始し、6カ月間試行を行います。

#### (2) 参加会員の募集

この試行に参加を希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール（E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX 03 5777 2099へ返信願います。

今回の試行が成功し、本格サービスに移行するためには、多くの会員の参加が必要です。周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加を希望します。

今回は試行であることから、参加会員としての経費は不要ですが、本格運用の場合は、実費をご負担いただく方向で、検討中です。

各号ごとに、点数によって異なるCPD単位を付与し、次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

#### (3) 申込期限 平成17年12月末まで、随時受け付けます。

#### (4) 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

試行部会の部会長は評価委員会幹事長が当たり、部会員は経験、

#### 農業土木技術者継続教育機構 通信教育の試行会員の申込み書

学会員番号	98012345
継続教育会員番号	L 21234
ふりがな	つうしん たろう
氏名	通信 太郎
所属	農政局 農業水利事務所 x 課

#### 通信教育の回答様式

回答する問題の掲載された学会誌の番号	Vol	74	No
学会員番号	L 21234	10	月号
継続教育会員番号	つうしん たろう		
氏名	通信 太郎		

回答欄 正解と考える番号を書き込んでください。

問1	1	問2	2	問3	4	問4	2
問5	3	問6	3	問7	4	問8	1
問9	4	問10	2	問11	2	問12	3
問13	1	問14	3	問15	1	問16	4
問17	2	問18	1	問19	1	問20	4

問題の量、質に関する質問・意見の欄

技術力等卓越した者を部会長が指名し、6名程度の体制とする予定です。また、採点やCPD記録の整理などは機構事務局が対応します。

#### (5) 試行の内容

毎号学会誌に3カ月前の学会誌の報文を主体（必要に応じて4カ月前も活用）に事務局が作成した問題を掲載します。問題は択一式とし、毎回20問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDをが与えられ、継続教育記録として登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### (6) 試行の評価と本格サービスへの移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、必要に応じ修正を加えた上で本格サービスに移行します。

## 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の発行について（再）

標記土地改良事業計画設計基準・設計「農道」が改定され、10月に発行されました。判型、ページ数、販売価格は下記のとおりです。

ご希望の方は下記までお申込み下さい。

なお、改定の趣旨は、73巻10号pp.81～82を参照下さい。

記

### 1. 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」

A4判 約730ページ

定 価 8,000円（消費税内税，送料学会負担）

2. 申込方法 郵便振替(00160 8 47993)または現金書留でお申込み下さい。

3. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会事務局 担当：河合

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

## 平成17年度農業土木学会地方講習会テキストについて（再）

地方講習会は、毎年各支部で開催し、テキストは学会本部で統一したものを作成し、使用していただいております。その内容は下記のとおりです。

地方講習会に出席できない方で、ご希望の方は、学会までお問合せ下さい。

テキスト内容

・ 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改定の解説

1. 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改定について

農村振興局計画部資源課 計画基準班

2. 洪水解析手法について

岡山大学環境理工学部教授 永井明博

前九州大学大学院教授 四ヶ所四男美

・ 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改定の解説

1. 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の改定について

農村振興局整備部設計課施工企画調整室 設計基準班

2. 設計基準「農道」改定における論点と配慮事項について

北里大学獣医畜産学部教授 今井敏行

・ 新たな食料・農業・農村基本計画の解説

1. 新たな食料・農業・農村基本計画と農政改革の推進

農村振興局計画部事業計画課

2. 農地・農業用水等の資源保全施設の構築に向けて

農村振興局整備部農村整備課

問合せ先 (社)農業土木学会

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

## 農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

### 農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成10年4月1日以降受付の論文から、論文最終原稿をA4版完全版下で提出いただくこととなっております。しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が非常に悪いというご意見が多数事務局に寄せられております。

論文集編集委員会では、平成10年からすでに7年を経過しており、現在はもう過渡期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、最終A4版完全版下原稿が、投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合は、再提出をお願いします。

2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意下さい。

3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局から業者を紹介いたします。

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末にはVol 3 No 3が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HR(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが, 現在会員数は282名(10月現在)と微増はしておりますが, いまだ目標会員数には達していません。そのため, 編集業務を含め赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末にはVol 3 No 3が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料, 掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**編集方針:** 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

**編集体制:**

• Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)

• Editors および Editing Board には世界各国から**斯界の権威が就任しています。**

• Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr.

Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA  
(Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun  
Gyeong YOON (Korea)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

## 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

### 74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、刷り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E-mail henshu@jsidre.or.jp

### 学会誌73・74巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1500字以内)	原 稿 締 切 (刷り4ページ厳守)
74巻 1号 住民参加型の地域再生	公募終了	
2号	公募なし	
3号 地域資源の保全と農業土木	公募終了	
4号 美しい里づくり 景観法施行を背景として	公募終了	平成17年11月15日
5号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	公募終了	平成17年12月15日
6号 大会関連 関東支部(仮)	公募なし	
7号 湿原・湿地の管理と環境保全(仮)	平成17年12月22日	平成18年2月15日
8号	公募なし	

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、73巻1号および農業土木学会ホームページに収載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

#### 74巻7号テーマ：「湿原・湿地の管理と環境保全」(仮)

近年、湿原・湿地の果たす環境への役割が見直されています。たとえば、湿原には保水・洪水調節機能、水質浄化機能、生態系保全機能などがあるとされています。また、水循環のみならず、炭素循環も注目を集めています。それは、地球温暖化問題に関連して、湿原における二酸化炭素等の温暖化ガスの吸収および発生について、まだわからないことが多いためです。

一方、自然の湿原だけではなく、人工的に湿地環境を形成することによって、同様の機能を発揮させようという試みもなされています。水田の冬期湛水・休耕水田の湛水といった農地の湿地的な管理もそうした例に含めることができるでしょう。

このように、湿原・湿地の適切な管理が健全な地域環境の形成にとって重要となっております。そこで、地域の中での湿原・湿地の機能を正しく理解し、適切に管理し、環境を保全する必要性および手法を知るための、研究、技術紹介、事例紹介等の報文を募集します。

#### 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取り組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ:1,200字(写真・体裁等含む)

刷り上がり1ページ以内(原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

**「性能設計チュートリアル」の開催**  
**農業土木学会土地改良施設に関する性能および機能検討委員会**  
**農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中**



- |   |  |
|---|--|
| <p>1. 主催 農業土木学会・土地改良施設に関する性能および機能検討委員会</p> <p>2. テーマ 農業水利施設・道路土工に関する性能設計の動向<br/>コンクリート構造物, 道路土工, 土構造物, 性能設計</p> <p>3. 期 日 平成 18 年 2 月 4 日(土) 9:00~12:00</p> <p>4. 会 場 兵庫県中央労働センター 大ホール<br/>〒650 0011 神戸市中央区下山手通 6 丁目 3 28<br/>☎078 341 2271 FAX 078 341 7332<br/><a href="http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/">http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/</a></p> <p>5. プログラム</p> <p>I. あいさつ 9:00~9:05</p> <p>II. 講師講演 9:05~11:30</p> <p>(1) コンクリート工における性能設計とその特徴<br/>島根大学生物資源科学部教授 野中 資博</p> <p>(2) 水路工における性能設計事例<br/>農林水産省農村振興局施工企画調整室長 下舞 寿郎</p> <p>(3) 道路土工指針の改訂について</p> | <p>(独) 土木研究所・材料地盤研究グループ(土質)<br/>上席研究員 小橋 秀俊</p> <p>III. 質疑応答 11:30~12:00</p> <p>6. 参加費 1,000 円 当日受付で徴収させていただきます。</p> <p>7. 申込 参加者氏名, 所属機関名, 所在地住所, TEL, FAX, E-mail をお書きの上, 下記 FAX もしくは E-mail にてお申込み下さい。<br/>また, 表題として, 「性能設計チュートリアルの参加」と明記して下さい。</p> <p>8. 申込先 〒700 8530 岡山市津島中 3 1 1<br/>岡山大学大学院環境学研究科<br/>申込み担当者: 村上 章<br/>☎086 251 8150, FAX 086 251 8881<br/>E-mail:sakura@cc.okayama-u.ac.jp</p> <p>10. 申込締切 平成 18 年 1 月 20 日(金)</p> <p>11. 宿 泊 各自で手配下さい。</p> <p>12. 問合せ先 申込先と同じです。</p> |
|---|--|

**平成 17 年度京都支部セミナー開催**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- |  |   |
|--|---|
| <p>1. セミナー 1: 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」および設計「農道」改定の解説</p> <p>” 2: 新たな食料・農業・農村基本計画の解説</p> <p>” 3: 農業水利施設の更新と維持管理</p> <p>2. 日 時: 平成 18 年 1 月 26 日(木) 13:00~17:00<br/>27 日(金) 10:00~16:00</p> <p>3. 場 所: 京都市女性総合センター(ウイングス京都)<br/>京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番<br/>☎075 212 7470<br/>交通機関: 地下鉄・烏丸御池駅または地下鉄, 四条駅徒歩 5 分<br/>阪急・烏丸駅徒歩 5 分</p> <p>4. プログラム</p> <p>【セミナー 1】平成 18 年 1 月 26 日(木)</p> <p>・ 12:00~ 受 付</p> | <p>・ 13:00~13:10 開会挨拶<br/>農業土木学会京都支部長</p> <p>・ 13:15~13:45 計画設計基準・計画「排水」改定<br/>京都大学大学院農学研究科地域環境科学教授<br/>青山 威康</p> <p>・ 13:45~14:45 計画設計基準・設計「農道」改定<br/>農村振興局資源課計画基準第 1 係長<br/>百済昌人</p> <p>・ 14:45~16:00 計画設計基準・設計「農道」改定<br/>土地改良技術事務所建設技術課設計技術第 1 係長<br/>森上 浩伸</p> <p>【セミナー 2】</p> <p>・ 15:05~16:00 新たな食料・農業・農村基本計画の解説<br/>農村振興局事業計画課課長補佐<br/>北林英一郎</p> <p>・ 16:00~16:50 農地・農業用水等の資源保全施策の構築</p> |
|--|---|



**第 43 回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第 1 報）**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- |   |  |
|---|--|
| <p>1. 主 催 農業土木学会材料施工研究部会</p> <p>2. テ ー マ 土構造物における機能の診断・損傷・復旧（仮題）</p> <p>3. 講 師 農林水産省・研究所・大学・民間の研究者および技術者（予定）</p> <p>4. 期 日 平成 18 年 2 月 3 日（金） 9：30～17：00</p> <p>5. 会 場 兵庫県中央労働センター大ホール<br/>〒650 0011 神戸市中央区下山手通 6 3 28<br/>☎078 341 2271 FAX 078 341 7332<br/><a href="http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/">http://www.hyogo-chuoroudo-center.jp/</a></p> <p>6. 参 加 費 4,000 円。当日受付で徴収させていただきます。</p> <p>7. 申 込 参加者氏名， 所属機関名， 所在地住所，<br/>TEL， FAX， E-mail， 弁 当（代 金 ¥1000）</p> | <p>希望の有・無， をお書きの上， FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。また， 表題として， 「材料施工研究部会シンポジウムの参加」と明記して下さい。</p> <p>8. 申 込 先 〒657 8501 神戸市灘区六甲台町 1 1<br/>神戸大学農学部気付 材料施工研究部会事務局<br/>申込担当：井上 一哉<br/>TEL&amp;FAX：078 803 5853<br/>E-mail:mornel@kobe-u.ac.jp</p> <p>9. 申 込 締 切 平成 18 年 1 月 20 日（金）</p> <p>10. 宿 泊 各自で手配下さい。</p> <p>11. 問 合 せ 先 申込先と同じです。</p> <p>12. そ の 他 詳細は学会誌次号に掲載予定です。</p> |
|---|--|

**ICID 第 57 回国際執行理事会， 第 3 回アジア地域会議および  
第 7 回国際マイクロかんがい会議における発表論文募集**

2006 年 9 月， マレーシア・クアラルンプールにおいて， ICID（国際かんがい排水委員会）第 57 回国際執行理事会， 第 3 回アジア地域会議および第 7 回国際マイクロかんがい会議が開催されます。

この度， ICID 日本国内委員会は， 下記の要項に従い， 論文募集を行いますので， 御希望の方は御参加下さい。

応募いただきました論文については， ICID 日本国内委員会にて選考を行い， 当会議で発表することが適当と判断したものにつきましては， 日本からの発表論文として提出する予定としています。なお， 選考結果につきましては， 採用本人への通知をもって代えさせていただきます。

**記**

**1. 会議開催概要**

開催期間：2006 年 9 月 10 日～17 日  
開催場所：マレーシア・クアラルンプール

**2. 論文募集の対象会議， セッション**

- 1) アジア地域会議
- 2) 国際マイクロかんがい会議
- 3) 国際執行理事会を構成するワークボディの一つである WG CROP（作物生産のための天然資源の持続的利用作業部会）が主催するワークショップ

**3. 募集テーマについて**

- 1) アジア地域会議  
全体テーマ：かんがい農業の効率的成長への転換  
Transforming Irrigated Agriculture into an Efficient Engine of Growth

**【個別テーマ(4つ)】**

- (1) 制度と政策 Institutional and Policy
  - (2) 管理 Management
  - (3) 経済 Economics
  - (4) 研究開発 Research and Development
- 2) 国際マイクロかんがい会議  
全体テーマ：最適作物生産と資源保全におけるマイクロかんがいの進歩  
Advances in Microirrigation for Optimum Crop Production and Resource Conservation
- 3) WG-CROP（作物生産のための天然資源の持続的利用作業部会）が主催するワークショップ  
全体テーマ：水田稲作における節水技術  
Water Saving Practices in Rice Paddy Cultivation

**4. 要旨作成要領等**

- 1) 内容：前述のテーマに沿った内容であること。また， 問題解決方法， 結果を導いたデータ， 分析， 結論を含むこと。5 つほどの Key Word を添えること。
- 2) 言語：英語
- 3) 文字数：600 ワード以内
- 4) タイトル：70 字以内が望ましい
- 5) 締切：アジア地域会議 / 国際マイクロかんがい会議 2006 年 1 月 6 日

WG-CROP 主催ワークショップ 2005 年 12 月 1 日

#### 5. 論文 (Full Paper) 作成要領等

応募いただいた要旨について、発表することが適当と判断したものにつきましては、採用本人に通知いたしますので、論文 (Full Paper) をご用意下さい。

アジア地域会議 / 国際マイクロかんがい会議

- 1) 全文の字数：4000 ワード以内 (図表含め A4 で 15 ページ程)
- 2) 締 切：2006 年 3 月末日
- 3) その他：論文 (Full Paper) には、約 250 ワードの Abstract を記述すること。また 500~600 ワードの Summary and

Conclusion (Resume Et Conclusions ; 仏語) を記述すること。

なお、WG-CROP 主催ワークショップの論文締切は 2006 年 3 月 1 日です。様式等は未定ですので、詳細は末尾に記載の事務局まで、お問合わせ下さい。

#### 【論文送付先および問合せ先】

〒151 0001 港区虎ノ門 1 21 17 虎ノ門 NN ビル  
(財) 日本農業土木総合研究所

☎03 3502 1389 FAX 03 3502 1329

担当：吉見 暁 satoru-yoshimi@jiid.or.jp

八百川朋世 tomoyo-yaokawa@jiid.or.jp